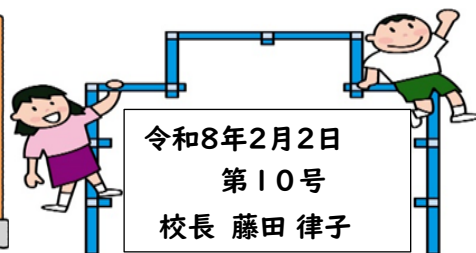
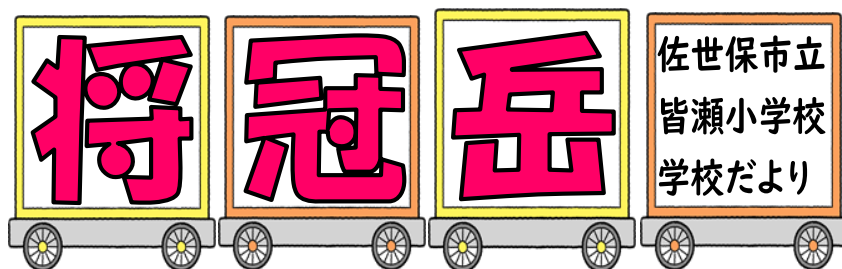


からだを鍛え知を磨き いつも誰にでも思いやりを持ち ぜんりょくで努力し伸びていく子供の育成



心を耕す

「心で見なくちゃ、ものごとは見えないってことさ。
かんじんなことは、目には見えないんだよ。」

1月30日(金)に、待ちに待っていた東京演劇集団「風」のミュージカル『星の王子さま』がありました。『星の王子さま』は、砂漠に不時着した飛行士が、小さな星から来た不思議な王子さまと出会い、彼の旅の物語を聞く中で「本当に大切なもの」に気づく物語です。体育館には照明機器や舞台装置が並び、本格的な観劇を、皆瀬小学校全校児童、皆瀬保育園とみどり保育園のお友達、保護者や地域の皆様と一緒に楽しみました。特に今回は、「みんなが物語の主人公」、参加型のミュージカルです。見て、聞いて、反応して、歌って、表現して…『星の王子さま』の世界を体験したことで、きっと子どもたちは何かを感じたはずですよ。



土に触れ、自然の恵みを実感する

1月15日(木)に、1年生が、牧の地の山口さんの畑に大根の収穫に行きました。広い大根畑には、元気な大根の葉っぱと太い大根の首がのぞいています。始めは泥で汚れることを気にしていた子も、まもなく、用意していたスコップを使わずに、大根の葉っぱをカいっばい引っ張って～すぽっ! あちらこちらで歓声があがりました。土に触れ、自然の恵みを実感するこの体験活動は、子どもたちの心を耕しています。

山口さんには、2年生がサツマイモ、3年生がジャガイモの栽培でお世話になっています。また、12月のキッズクラブの餅つきも、山口さんの全面的なご協力のおかげで実施できました。本当にありがとうございます。

2月の予定

6日(金) SC本山先生来校日

7日(土) キッズクラブ「ベーコンづくり」②

8日(日) キッズクラブ「ソフトボール」

10日(火) 新入生入学説明会

11日(水) 建国記念の日

14日(土) 市P連フェス eスポーツ大会

15日(日) 家庭の日

17日(火) 授業参観1・2・3・5年

18日(水) クラブ見学3年

19日(木) 食育・徳育の日、3年5校時で下校

20日(金) 授業参観4・6年

23日(月) 天皇誕生日

27日(金) 校旗継承式・6年生を送る会

SC本山先生来校日

車の乗り入れについてのお願い

本校の正門付近は狭く、折れ曲がっているため先を見通すことができません。雨天時など送迎の車が集中する時間帯には、学校に入る車と出る車がギリギリ離合したりどちらかがバックしたりしているすぐ脇を、傘を差した児童が通る様子が見られて、事故が起こらないかととても心配しています。

以前、まなびポケットでもお願いしましたが、徒歩で登下校する児童の安全を守るため、登下校時の送迎のための車の乗り入れはご遠慮ください。もちろん事情がある場合はこの限りではありませんので、ご相談ください。児童の安全を最優先したいと思えます。ご理解ご協力お願いします。



キッズクラブ 協力者募集!

皆瀬小キッズクラブの「逃走中」と「餅つき」は大成功でした。地域の方々からは、「来年もぜひ実施して欲しい。」、他校のPTAの方からも、「いい取組で、羨ましい。」との声をいただきました。ところが、代表の金崎さんによると、活動に協力してくれる人がまだ見つからないそうです。体験を通して子どもの居場所をつくる素晴らしい取組です。金崎さんは、協力者を登録制度にして、活動ごとに協力しやすい仕組みにしますとおっしゃっています。また、キッズクラブはPTAとは別組織なので、保護者以外の方でも大丈夫です。次年度もキッズクラブが継続できるよう、協力して下さる方をお待ちしています。

深読み『星の王子さま』…メルヘンの奥に、戦争への静かなる抵抗

『星の王子さま』は、子ども向けのメルヘンですが、物語や言葉の奥に、たくさんの深いテーマが埋め込まれています。「王子様が会えるこの大人たちは、それぞれどういう人間性を表しているのだろうか?」「キツネのこの言葉に込められた真の意味は?」…じっくりと深読みすることで、いろいろ考えさせられる名作です。

その中で、私がどうしてもわからなかったのがラストのシーンです。王子さまは、星に帰らなければいけないと言い、「体は重すぎるから置いていく。」と言います。それって、死ぬってこと? 来るときは普通に旅してきたのに、なぜ帰る時にはこんなに重々しい感じになり「勇気が必要」なの? 私は、このことを考えるために、この物語が書かれた時代背景を調べてみました。

この物語が書かれたのは、第2次世界大戦の真ただ中でした。作者サン＝テグジュペリはフランス人の飛行機乗りでしたが、1940年、フランスはナチス・ドイツの侵攻を受けて降伏します。サン＝テグジュペリは失意の中、アメリカのニューヨークに亡命。母国が敵の手に落ち、友人たちが苦しんでいる状況で、遠く離れた場所から、一人、故郷を想う孤独感は、王子様が自分の星を想い、バラを心配する気持ちにつながります。1944年、『星の王子さま』を書き上げたサン＝テグジュペリは、「国が大変な時に自分だけ安全な場所にいて本を書いているわけにはいかない。」と言ってフランスに帰ります。そして、1944年7月、偵察任務のために地中海に飛び立ち、そのまま行方不明(戦死)になりました。「帰らなければならない」と思っていたのはサン＝テグジュペリ本人でした。そして、彼も王子さまのように地球から姿を消したのです。

『星の王子さま』は、サン＝テグジュペリの平和への祈りを込めた「遺言」だったのかもしれませんが、皆瀬小の子どもたちが、ずっと『星の王子さま』のことを覚えていてくれるといいなと思いました。

